



活力あふれる「県下ナンバーワン」の ものづくりのまち

各務原市は、岐阜県下ナンバーワンの「製造品出荷額等」を誇り、平成23年には、国内の航空機産業拠点の一つとして、県内でいち早く「国際戦略総合特区」に指定されました。

市内の高い技術力を集約し、さらに活力あふれる「ものづくりのまち」を目指しています。

関連するSDGsのゴール



(注) 新型コロナウイルス感染症の影響などにより、中止となった事業もあります

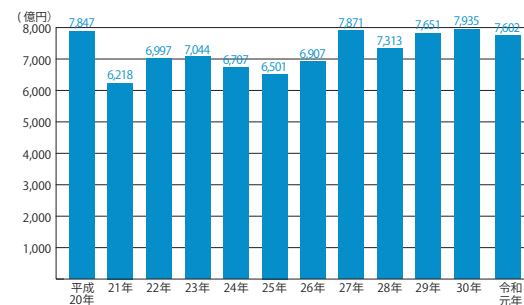
19年連続県内1位！の出荷額

航空自衛隊岐阜基地がある各務原市には、航空機や自動車関連の工場が立地するほか、ITやロボット技術、医療など、先端産業の開発工場や研究施設などが集積するテクノプラザをはじめ、県金属団地や市工業団地など、さまざまな工業団地や金属加工工場が集積しています。

「ものづくりのまち」として発展してきた市の製造品出荷額等（市内で生産される製品の出荷額を示す）は、19年連続で県内第1位となっています。近年は7600億円を超え、県内での市のシェアは、令和元年のデータで約12.9%。県下ナンバーワンの「ものづくりのまち」として、不動の地位を誇っています。

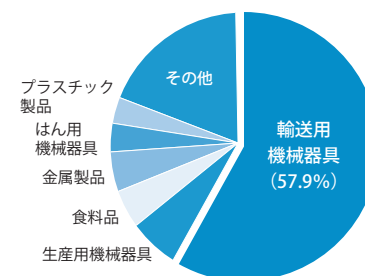
また、製品出荷額等の業種構成を見ると、航空機や自動車などを中心とした「輸送用機械器具」が57.9%と、他の製品に比べ圧倒的に高い割合を占めています。

製造品出荷額等の推移



出典 | 経済産業省「工業統計」
(平成23年、27年は総務省「経済センサス活動調査」)

製造品出荷額等の業種構成



出典 | 県統計課「令和2年工業統計」(4人以上)

産業界に求められる人材の確保・育成

少子高齢化や新型コロナウイルスの流行により、産業を取り巻く市場環境が大きく変化する中で、生産性の向上や人材の確保・育成が大きな課題となっています。

市でも、市内企業の生産性向上のためのIoT、ロボット導入の促進や、人材不足解消に向けた取組を進めています。

ロボット導入による生産性向上

市内には、テクノプラザを中心に、ロボットシステムを構築する企業、システムインテグレーター（Sler）が集積しており、市はロボット技術関連産業振興にも力を入れています。

グイ・アール・テクノセンターでは、ものづくり企業のロボット導入を進めるため、ロボットデモンストレーション・展示により技術をPRし、Slerを育成する機能を持つ「岐阜県ロボットSIセンター」を開設しました。ロボットSIセンターでは、IoT・ロボット導入による中小企業の生産改善の相談にも対応しています。

市では、ロボットSIセンターを活用し、関連機関と連携して製造業における効率化、少人化を推進するとともに、Sler 育成研修事業への支援を行っています。



地元企業の魅力を子どもたちに

これまで小中学生や高校生を対象に、市内のものづくり企業の工場を見学するバスツアーを開催するほか、市内企業で働く若手社員の声を集めた冊子を作成するなど、地域で育った子どもたちに、地域で就職してもらう「地育地就」ための取組を展開してきました。

令和3年度は、オンラインで工場見学が体験できる動画を制作しました。小中学生が一人一人に配布されたタブレット端末を使って、学校や自宅で動画を見ることで、市内企業への理解や親しみを深めてもらうことを期待しています。



市内企業の未来を支える人材確保に向けて

少子化や県外への転出超過が続く中、県内の労働力人口はますます減少することが予想されます。これまで、多くの県内高校生が進学する東海地方はもちろん、北信越地方などの大学を訪問し、市内企業のPRを行ってきました。

今後も、市内企業と学生をマッチングする取組や、企業概要や採用計画を掲載するガイドブックを作成するなど、市内企業の人材確保をサポートしていきます。



企業ガイドブック